

# 令和6年度自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立郡上特別支援学校

学校番号	1 1 2
------	-------

## 自己評価

学校教育目標等
(1) 校訓 あかるく なかよく たくましく (2) 学校教育目標 一人一人の可能性を最大限に伸ばし、「自己肯定感」「豊かな心」「健やかな体」を育て、夢や目標の実現に向けて生き生きと活動する児童生徒を育成する。 ① 夢や目標の実現に向け、様々な活動に意欲的に取り組むことができる児童生徒 ② 豊かな人間関係を築き、進んで地域や社会の活動に参加できる児童生徒 ③ 健康の増進と体力の向上に努め、生き生きと活動できる児童生徒

### ※記入凡例

<成果と課題>   ◎：重点事項   ○：成果   ●：課題  
 <評価>           A：達成できた   B：概ね達成できた   C：やや不十分であった   D：不十分であった

領域	重点項目	具体的取組及び成果と課題	評価
学校経営 組織運営 各部重点	◎児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリア発達に基づいた教育の推進。 ◎地域と連携し、地域と共にある学校づくりの推進 ◎児童生徒の命を守るための教育の推進と危機管理体制の構築。 ◎全教職員が、生き生きとやりがいをもって働ける職場。 ◎誰もが働きやすい職場 ◎業務の適正化・効率化など働き方改革への意識の向上。 ◎小学部 仲間と共に活動し、自分の良さを知り自信をもって学習や生活に取り組める児童を育てる。 ◎中学部 だれとでも互いの良さを認め合い、目標に向かって協力して粘り強く最後までやりきる生徒を育てる。 ◎高等部 一人一人が夢や希望をもって学校生活を送り自己実現に向けて自信と豊かな心を育みながら、地域社会の一員として自立できる生徒を育てる。	○研修主事を中心に校内研修を推進し、児童生徒の発話や行動から授業改善を考える機運が高まり、平素から職員間で対話が行われた。 ○地域住民、地元企業や行政とのつながりを大切にして、各行事において積極的に地域と連携できた。 ○児童生徒が自分で身を守ることができるように、命を守る訓練、情報モラル教育、地域との防災活動を実施した。 ○働きやすい職場づくりを目指した研修で意見交換を行い、職場環境づくりにつながる取組を職員一同で考えた。 ○校長面談やハラスメント調査等で職員の声を聞き取り、働きやすい職場の改善に努めた。 ○より良い職場環境へ改善するため、校内業務や各種委員会・研修会等の見直しを図った。 ○学年をまたいで活動する機会が増えたことにより、関わり合いが増え、他の学年の仲間にも自分の思いを言葉で伝えたり、仲間の誘い等を受け入れたりする姿があった。(小学部) ○食育や校外学習、職場見学など仲間とともに体験することを通して、ふるさと郡上の魅力を知り、愛着をもつことができた。また、校内作業実習では、自己の課題に向き合い最後までやりきる姿が見られた。(中学部) ○部間の交流を積極的に実施することができ、年齢を超えた関わりが増えるとともに、自己の役割を意識し生き生きと学習する姿につながった。(小中学部) ●毎日の朝運動が定着したが、児童生徒の体格や生活習慣を鑑みるとまだ不十分であり、定期的に体を動かす機会を設ける必要がある。(小中学部) ○校外学習や実習も含め、地域の企業や事業所、施設と連携した取組や、外部講師を招いたガイダンスや講座受講の機会を多く設け、地域の方々と積極的に関わることで、ふるさとへの理解を深めるとともに、人間関係を広げ進路選択への意欲につなげることができた。(高等部) ○金曜日の1時間目に新たに設定した自立活動の時間を核とし、適切な人との関わり方やコミュニケーションについて生徒も教員も考え、実践的に取り組むことができた。(高等部)	A
教科指導	◎体験的な学習を仕組んだり、ICT機器を活用したりして、児童生徒の主体性や生活に生かせる実践的な力を身に付ける学習の充実を図る。 ◎新たな時代に必要な3つの資質・能力を育成するため	○地域交流、学校間交流、校外学習など校外で活動をする機会が増え、体験的な取組の中で生きる力を育む学習活動を仕組むことができた。 ○児童生徒と対話や関わりを大切にして、内面の捉えに基づい	A

	<p>に、児童生徒の発達段階や学習状況を踏まえ、教育的ニーズに応じた指導のねらいと評価の観点を明確にし、個に応じたきめ細かな指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の物事の見方、考え方を豊かにし、学びに向かう力を育成するために、対話や関わりを大切にしながら指導の充実を図る。</li> <li>・主権者教育、消費者教育等の現代的課題に応じた学習の充実を図る。</li> </ul>	<p>た指導をすることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○育成すべき資質・能力の3つの柱のバランスを意識した指導と評価の年間計画の立案ができ、学習指導に生かすことができた。</li> <li>●「各教科等を合わせた指導」における教科目標の視点が十分でなく、校務支援システムを活用したり、指導と評価の年間計画の様式を整えたりして学習指導要領における教科目標・内容の履修意識を高めていく。</li> </ul>	
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎キャリア・パスポートを活用し、学校生活全般において教師が児童生徒と対話的に関わりながら、学んだことを振り返るとともに自己肯定感や自信を育成する。</li> <li>・児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリア形成、発達段階に基づいた実践力を育成する指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア発達を促す支援を意識することで児童生徒の成長を丁寧に評価できた。児童生徒へ評価を返すことで、自己肯定感の育成につながった。</li> <li>●部間の連携や児童生徒の願いを大切にしながら授業と、キャリア・パスポートとの関連について検討していく。</li> <li>●キャリア・パスポートを効果的に活用できるように、職員室の鍵付きの棚ではなく、各教室等で保管したい。</li> </ul>	B
ふるさと教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎岐阜県や郡上市の魅力を理解し、地域の人と触れ合いながら地域に愛着をもち、貢献できる児童生徒を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各部とも積極的に地域と関わりをもつ学習を実施することができたため、来年度も地域と関わる機会を設け、郡上市の魅力を発見できる学習を計画立案していく。</li> </ul>	A
総合的な学習（探究）の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分の生活、進路、地域に関する学習等に継続して取り組み、児童生徒のよりよく課題を解決する力や態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的な探究の時間だけでなく、各教科や生活単元学習と関連付けながら学習を深めることができた。</li> <li>●行事の実施時期が集中することがあった。学習の目的を達成するためのねらいを整理し、実施の見直し、改善を図っていく。</li> </ul>	A
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎児童生徒が自己理解を深め、自分の力を最大限に発揮しようとする主体的な態度を育成する。</li> <li>・各教科等と関連付け、教育活動全体を通して自立活動の効果的な指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部講師（作業療法士・言語聴覚士）を招聘し、対象児童生徒一人一人の動作や課題について指導助言をいただき、指導に活かすことができた。</li> <li>●児童生徒個々に応じた支援目標を明確にした上で、教育活動全体の中で適切な支援を行うことが必要である。</li> </ul>	B
道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎経験の拡充を図り、豊かな道徳的心情を育て、道徳的判断力、実践意欲と態度を育成する。</li> <li>・仲間や地域の人々との触れ合いを通して、命を大切にすること、相手を思いやる心、感謝する心を育て、温かい人間関係を醸成する。</li> <li>・体験的な活動を通して、自己を見つめる力や社会生活のルールを身に付け、強く明るく生きようとする意欲と態度を育成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校交流会を行い、校舎間の交流の場を設けることができた。</li> <li>○学校生活全般で、仲間との関わりを大切にしながら思いやりや他者理解の心を育むことができた。</li> </ul>	B
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎生徒会活動、委員会活動等において仲間と協力して活動を展開する中で、より良い学校生活を築き、自発的、実践的な態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○委員会・生徒会活動では、仲間と同じ目的をもって考え、話し合い、協働活動を実施する中で自主性や仲間意識を育むことができた。</li> </ul>	B
ICT活用推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ICTを活用した「学びのスタンダード」の効果的な授業実践、活用実践を積み上げていく。</li> <li>・業務の効率化や効果的な学習指導のために、職員研修の実施、活用事例の共有を図ることで、ICT機器活用のリテラシーを高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレット端末を活用した授業実践を行うことができた。</li> <li>○ICT機器の使用方法や注意点について、職員からの問い合わせが多い内容をデータで共有し、誰もが活用できる状況整備に努めた。</li> <li>●ICT機器を活用した効果的な授業実践を共有する機会を多く設ける必要がある。</li> </ul>	B
指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎児童生徒のキャリア発達を目指し、児童生徒の内面を丁寧に捉え、職員間で深め合うための研究を推進する。</li> <li>◎学校や個々の課題解決のために、対話を重視し、主体的に職員間で学び合う研修・研究を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部講師の協力を得ながら、公開授業をもとに児童生徒の内面を捉え、職員間で対話する取組を行い、児童生徒の内面の捉えの広がりや習慣化につなげることができた。</li> <li>○捉えた児童生徒の内面をもとにして考えた支援を職員同士で対話し、授業改善へつなげることができた。</li> <li>○自己課題を明確にした研究授業や興味関心に基づく主体的な研修受講を推進できた。</li> <li>●職員からのニーズが高い「各教科等を合わせた指導（生活単元学習）」についての研修を外部講師に依頼する。</li> <li>●校内職員のニーズに柔軟に対応できる主体的な研修機会を整えていく。</li> </ul>	B

健康教育	<p>◎児童生徒が自らの健康、心身の成長発達に関して適切に理解し、行動できる力を育成する。</p> <p>◎生涯にわたって健康で健全な食生活を実現できる知識と習慣を身に付けられるよう、家庭と連携して取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育、健康に関する指導をとおして、基礎体力の向上を目指し、運動に親しむ基礎を培う。</li> <li>・感染症を含めた健康課題について正しく理解し、予防に必要な知識と習慣を身に付けられるよう、指導の充実を図る。</li> </ul>	<p>○高等部では、外部講師による薬物乱用防止講座を実施し、身近な健康課題として学習することができた。小学部、中学部では、季節の行事等と関連付けた活動や学校生活全体を通して、性教育や健康管理に関する学習に取り組み、健康維持のための基本的な技能を身に付けたり、自分の体の成長に興味をもったりすることにつなげることができた。</p> <p>○栄養教諭を中心とし、地域の食文化を取り入れた活動や給食試食会を実施して、家庭や地域と連携した食育に取り組むことができた。</p> <p>○学校周辺を歩く活動や部活動、体育に関わる校外学習を実施し、継続的に運動に取り組む機会を設定して、基礎体力の向上を図った。</p> <p>●性や感染予防に関する指導の充実を図りたい。</p>	B
生徒指導	<p>◎児童生徒の社会自立に向け、自らの可能性を最大限に発揮できる資質や能力の向上を目指す指導を行う。</p> <p>◎自信をもって主体的に活動参加できる人材の育成と、自他の生命を尊重することができる豊かな心の育成を目指す。</p> <p>◎問題行動や諸課題の解決に向け、保護者や関係諸機関等との連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ、不登校、性に関する問題等について未然防止と早期発見・早期対応に努める。</li> </ul> <p>◎「自分の命は自分で守る」ことのできる児童生徒の危機管理能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルに基づいた防災教育や管理を計画的に進め、自らの命を守る実践力を育成する。</li> </ul>	<p>○校内の職員や外部講師による情報モラル学習を行い、規範意識を高めることができた。また、情報モラルアンケートの実施により、実態を把握し個に応じた的確な指導を行うことができた。</p> <p>○部活動の各種大会に生徒が自ら申し込み、参加大会も増え、積極的に参加することができた。</p> <p>○連絡帳、心のアンケート等の各種アンケート、ホームページなどを活用し、教職員、家庭、外部委員との情報共有を行い、問題等が発生したときの連携や迅速に対応するための組織作りができた。</p> <p>●児童生徒の小さな変化にも気付けるように努めていく必要がある。また、いじめの定義などは、継続的に学校職員全体に理解啓発していく必要がある。</p> <p>○危機管理マニュアルに基づき、計画的に各種命を守る訓練を実施し、様々な災害に対する行動を意識付けることができた。また、各部児童生徒の実態に合わせた訓練や防災教育を実施した。</p>	B
進路指導	<p>◎「地域でたくましく働き続ける人」「地域の担い手となる人材」の育成をめざし、夢や自信をもち主体的に進路選択する力、社会のニーズに対応する力、変化する社会を生き抜く力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部段階から主体性、実践力を育む進路指導、キャリア教育の充実を図る。</li> <li>・早期からのキャリア構築、進路意識を高めるための情報提供の充実を図る。</li> <li>・個別の移行支援計画の活用と学校から社会へのスムーズなキャリアステージの移行を行う。</li> <li>・就労先、実習先の確保に向けた、就労支援ネットワークの拡充を図る。</li> </ul>	<p>○中学部・高等部では地域の協力を得て、進路に関する行事を計画通りに進めることができた。実習や事業所見学、販売会等をとおして働く力を育むことができた。</p> <p>○進路通信を月1回程度発行、ホームページの更新、進路行事を全校の保護者へ案内等を行い、情報提供を行った。</p> <p>○雇用対策協議会や学校見学会を通じて、企業の方々に当校の取組や生徒の様子を知らせた。</p> <p>●進路通信やホームページを活用した情報発信を継続し、メール配信で進路行事の案内をして、保護者への情報提供をさらに充実させる工夫をする。</p> <p>●個別のニーズに合わせた進路実現のために、職場開拓、啓発活動に取り組む。</p> <p>●職員向けの市内事業所見学会、進路研修会を実施してきたが、さらに進路に対する知識が深められるように研修機会を設ける。</p>	B
地域連携	<p>◎学校祭や米作り、清掃活動等の地域と学校がともに参加する行事を通して、互いに連携や協働をしながら地域に開かれた学校づくりを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間、居住地校との交流及び共同学習、地域での活動を通して、社会性や豊かな人間性を育成する。</li> </ul>	<p>○大和校舎では例年通り米作りを実施できた。今年度は「収穫感謝祭」を行い、日頃お世話になっている地域の方を招待し、収穫した米とサツマイモを豚汁と共に食べていただいた。那比校舎では、那比太鼓の演奏を中心に「Good Job 喫茶」や作業製品販売を実施し、地域の方との交流を行うことができた。学校祭は大和校舎のみの開催となったが、地域の方や同窓生の来校もあり、児童生徒の学習の成果を見ていただくことができた。中学部の地域交流も継続して実施し、地域の方を招いての夏祭りでは、生徒の考えたゲームや郡上踊りで盛り上がった。</p> <p>○学校間交流や共同学習については、小学部は今年度から大和小学校との交流となった。ミニ運動会や巨大な行燈を共同製作する交流を行った。中学部は大和中学校との交流を</p>	A

		<p>例年通り実施し、生徒が考えたレクリエーションで交流した。高等部は今年度から郡上高校園芸科学科との交流となり、花苗の栽培や作業学習を通して交流を行った。</p> <p>○居住地校交流については、交流校に直接訪問する直接交流を中心に実施することができた。交流回数は昨年と同程度となり、児童生徒の実態に合わせて、オンラインでの交流も実施した。</p> <p>●中学部になると居住地校交流を希望する生徒が少なくなるため、居住地域と関わる機会を作っていくことが課題である。</p> <p>●「Gujo Smileサポーターズ」の方に行事の協力依頼を積極的に行うことができなかった。引き続き募集を行っていくが、情報共有しやすい環境を整えていく必要がある。</p>	
--	--	--	--

学校関係者評価 (令和7年2月4日学校運営協議会実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいに対する偏見をなくすため、学校外における地域活動や居住地校交流の機会が有効である。積極的に参加し、活用してほしい。</li> <li>・多くの地域の方に学校行事に参加してもらうため、地域シニアクラブの会長に案内するとよい。</li> <li>・障がい者雇用が増えている。本校も新たな就労先を開拓してほしい。</li> <li>・卒業後の離職について学校の課題として捉え、対策を福祉と一緒に考えてほしい。</li> <li>・働き方改革の一環として、職員全員で校内業務の見直し作業ができた点が評価できる。</li> <li>・働き方改革として、時間短縮と業務見直しの両面から取り組んでいることを確認できた。</li> <li>・令和7年度にかかみがはら支援学校が開設される。郡上特別支援学校の一校舎体制に向け、既存の学校施設をモデルとしてほしい。</li> </ul>
---